

# 「井戸」へ潜る、「窓」からまなざす（ごあいさつに代えて）

東北芸術工科大学の小金沢ゼミ（芸術学部美術科日本画コース）では、「井戸」と「窓」をメタファーとして、自身の内側と外側に対する意識を手がかりに制作した絵画を展覧する展覧会「井戸と窓」を開催いたします。

例えば、村上春樹の小説『ねじまき鳥クロニクル』（1994年）で主人公の岡田トオルが潜り込んだ、外界から閉ざされ、個人の意識・無意識へと深く潜る場所としての「井戸」。

あるいは、赤瀬川原平が絵本『四角形の歴史』（2006年）で、（人間は、そこから）「はじめて風景を見たのではないだろうか」と書いた、自身以外の世界へとひろく視線を向けさせるものとしての「窓」。

「井戸」と「窓」は、それぞれ固有の機能を持ちながら、それだけにとどまらないイメージを静かに目覚めさせるモチーフです。

今回の展覧会では、今年度卒業予定のゼミ生5名の作品を、担当教員の私が見つめたとき、「風景」や「記憶」に対する視点・関心が共通して認められるのではないかという思いと、学生からの、「展覧会をするなら、本画だけではなく、下絵やスケッチも展示したい」（「本画」とは、日本画における完成作品を指します）という提案があり、そこから「井戸と窓」という、シンプルですがどこか謎めいているテーマへとたどり着きました。

「何かをつくる」ということは、自身の内側と外側を、世界の表と裏を、作品の完成と未完成を、すなわち、あちらとこちらを行ったり来たりすることのように思います。

作品にあらわれるのは、かけがえのない、作者のその不断の営為にはほかなりません。

本展では、同時に卒業制作にも取り組みながら、自身にとっての「井戸と窓」を見つめる5名の思索をご覧ください。

2023(令和5)年8月

小金沢智(東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース専任講師)

[概要]

展覧会名: 小金沢ゼミ展2023「井戸と窓」

出品学生: 春日井花梨、鈴木千賀、田中里奈、眞島まどか、百井さくら(東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース4年)

担当教員: 小金沢智(東北芸術工科大学日本画コース専任講師)

会期: 2023年8月23日(水)～9月3日(日) 10時～19時[最終日は17時まで] 会期中無休

会場: THE LOCAL TUAD ART GALLERY (〒990-0043 山形県山形市本町 1-5-19 やまがたクリエイティブシティセンター Q1 1階 1-G)